



ユーザーマニュアル

CN-6000

## 注意

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。



## 同梱品

- ◆ CN-6000 KVM on the NET™ コントロールユニット本体 × 1
- ◆ CS カスタム KVM ケーブル × 1
- ◆ 電源アダプタ × 1
- ◆ ラックマウント用キット × 1
- ◆ ソフトウェア CD × 1※<sup>1</sup>
- ◆ ユーザーマニュアル × 1※<sup>2</sup> (本書)
- ◆ クイックスタートガイド × 1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

※<sup>1</sup> CN-6000 ソフトウェアの旧バージョン(アプリケーションベース)が入っています。

※<sup>2</sup> CN-6000 の本バージョン(ブラウザベース)と旧バージョン(アプリケーションベース)の両方のマニュアルが PDF ファイルで入っています。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

©Copyright 2003-2004 ATEN® International Co., Ltd.

Manual Part No. PAPE-0227-200

Printed in Taiwan 10/2004

記載されている社名/商品名などは各社の商標並びに登録商標です。

# 目次

第1章 はじめに	8
製品概要	8
特長	10
必要動作環境	11
第2章 ハードウェアセットアップ	12
フロントパネル	12
リアパネル	13
インストールする前に	14
第3章 CN-6000 へようこそ	15
ログイン	15
画面説明	17
第4章 アドミニストレーション	18
General	19
Network	20
IP Address	21
Security	22
Filtering	23
User Manager	25
Customization	27
Firmware	28
第5章 Windows クライアント	29
オペレーション	31
OSD コントロールパネル	31
キー入力	32
マウス同期	32
ホットキー	35
ホットキー設定変更	37
ビデオアジャスト	37
第6章 Java クライアント	39
オペレーション	40
ツールバー	41
ビデオ	41
キーパッド	41
マウス	42
LED ロック	42
第7章 ログファイル	43
付録	44
製品仕様	44

ラックマウント	45
IP アドレス	46
方法 1 (静的 IP アドレス)	46
方法 2 (静的 IP アドレス)	47
方法 3 (動的 IP アドレス)	48
ログイン情報の消去	49
トラブルシューティング	50
一般的な操作	50
Windows クライアント	50
Sun システム	51
Java クライアント	52
ログサーバ	52
製品保証規定	53

## 本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、CN-6000 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・配置方法、および操作方法のすべてを提供しています。マニュアルの構成については下記をご参照ください。

- 第1章 はじめに: CN-6000 コントロールユニットの特長および機能の概要説明
- 第2章 ハードウェアセットアップ: CN-6000 ハードウェアのセットアップの詳細
- 第3章 スタートアップ: CN-6000 へのログインと起動時画面
- 第4章 アドミニストレーターユーティリティ: システムの設定・管理を行うアドミニストレーターとしてのログイン・操作方法
- 第5章 Windows クライアント: Windows クライアント用ソフトウェアの操作方法・リモート操作によるコンピュータおよび KVM スイッチの操作方法
- 第6章 Java クライアント: Java クライアント用ソフトウェアの操作方法・リモート操作によるコンピュータおよび KVM スイッチの操作方法についての詳細
- 第7章 ログファイル: CN-6000 のすべてのログを管理するログファイルユーティリティについての詳細
- 付録 CN-6000 についての仕様および関連する技術的な情報や操作方法

## マニュアル表記について

[   ]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。またホットキー操作のようにキーを連続して押す場合は、[Ctrl] , [Alt] , [Shift]のようにコンマ(,)を挟んで表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆

◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→

矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。

▲

重要な情報を示しています。

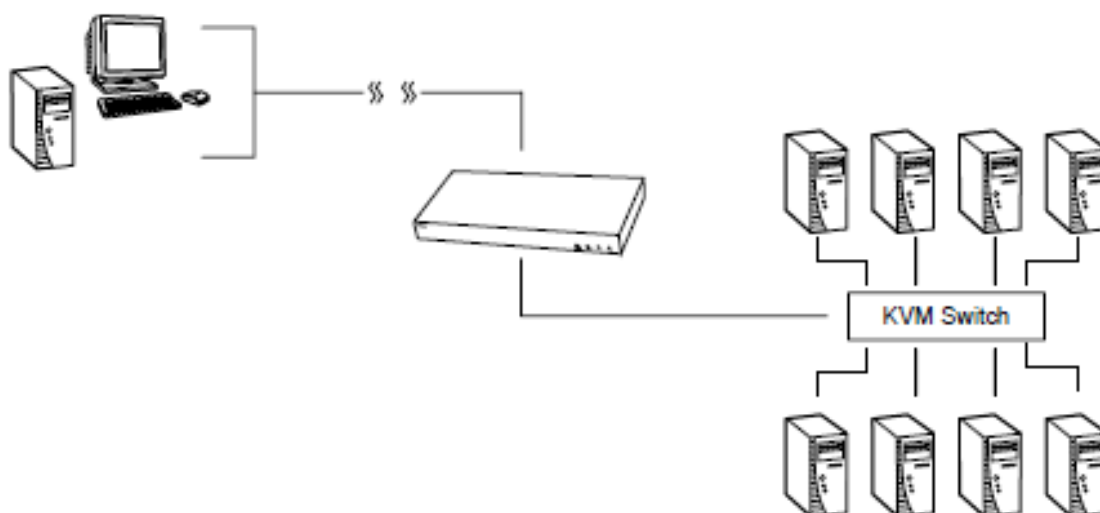
# 第1章 はじめに

## 製品概要

CN-6000 は離れた場所から web ブラウザを使用して、コンピュータを監視したり操作したりできるようにするためのデバイスです。本装置は標準のカテゴリ 5 LAN ケーブルを使用して、CN-6000 をインターネット、イントラネット、LAN または WAN に接続し、KVM ケーブルを使用してローカル KVM やコンピュータに接続して使用します。

CN-6000 は通信プロトコルとして TCP/IP を使用します。管理者は離れたところからネットワークに接続されたパソコンを利用して、CN-6000 に接続されたコンピュータや KVM スイッチにアクセスできます。つまり、オフィスの別の部屋からでも、出張先からでも、果ては地球の裏側からでもアクセスすることが可能となります。

リモート操作では、IP アドレス経由で CN-6000 に接続します。一度その接続が認証されると、離れた場所にいるユーザは、コンピュータ、あるいは KVM スイッチに接続された複数のコンピュータを、まるで今その場所に居るかのように操作できるようになります。



CN-6000 は信頼のおける強靱なセキュリティシステムに守られていますので、安全、迅速、且つ低コストで遠く離れた場所からでも複数のコンピュータにアクセスし管理することができます。

CN-6000 にはアドミニストレーターおよびクライアントそれぞれのユーティリティソフトウェアが付属しており、簡単なインストールでメンテナンスや操作を行うことができます。管理者は複数の作業、例えば GUI ベースのアプリケーションのインストールと動作確認や、システム監視、メンテナンス、再起動、さらには BIOS レベルのトラブルシューティングなど OS 起動前の作業も容易に行うことができます。

アドミニストレーターユーティリティでは、システム設定/リモートアクセス設定/ユーザー管理/ファームウェアとソフトウェアのモジュールのアップデートによるシステムの維持等のコントロールを行えます。

GUI の Windows クライアントと Java クライアントを使用して、ネットワーク上のどこからでもログインが可能です。とりわけプラットフォームから独立し Java ベースで動作する Java クライアントは、Java が動作するすべての OS 環境での操作を実現しています。

CN-6000 に接続されたコンピュータは、クライアントソフトウェアでアクセスし操作します。オペレーターがログインすると、目の前のモニタに、まるでその場所に居るかのように CN-6000 に接続されたコンピュータ(例:KVM スイッチの OSD 画面、サーバのデスクトップ、作業中のプログラム画面など)の画面が表示され、手元のコンソールからそれら进行操作することができます。

ログサーバでは選択された CN-6000 の全てのイベントを記録することができ、アドミニストレーターはそれらを分析することができます。

また CN-6000 のファームウェアは、ファームウェアアップグレードユーティリティにて最新の状態に保つことができます。弊社のウェブサイトからアップグレードパッケージをダウンロードして、最新の改良された機能へと迅速かつ簡単にアップグレードさせることができます。

## 製品特長

- ◆ リモートアクセスにて、KVM スイッチあるいはコンピュータに、LAN、WAN、インターネットを介してオフィスの別の部屋からでも、出張先からでも、地球の裏側からでもリモートコントロールが可能
- ◆ 32 人の同時ログインが可能
- ◆ 64 人までのユーザーアカウントが作成可能
- ◆ 10Base-T、100Base-T、TCP/IP、HTTP 対応
- ◆ VGA 解像度－最大 1280×1024 @ 75Hz ; 1600×1200 @ 60Hz
- ◆ Windows GUI 及び Java ベースのクライアントソフトウェア－Java クライアントは Java が動作する全ての OS で使用可能
- ◆ 先進のセキュリティシステム－パスワード保護、高度な暗号化テクノロジーを使用
- ◆ ファームウェア アップグレード可能－ネットワーク経由でアップグレード可能

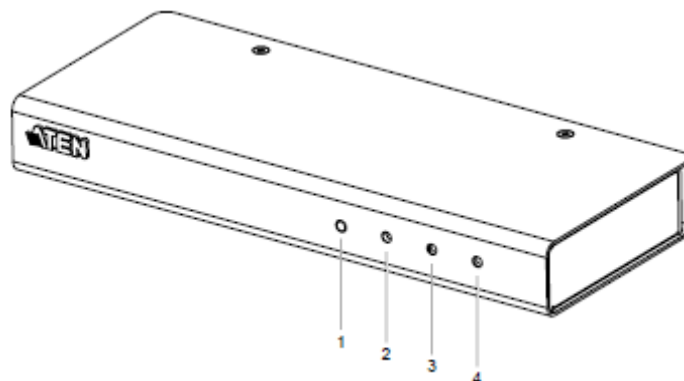
## 必要ハードウェア環境

- ◆ CN-6000 にアクセスするために使用されるコンピュータは、Pentium III 1GHz 以上のプロセッサおよび VGA 解像度 1,024 × 768 以上に対応したモニターが推奨環境です。
- ◆ 使用するブラウザが RSA 128bit 暗号化に対応している必要があります。
- ◆ Windows クライアントを使用する場合は、DirectX 7.0 以上がインストールされていなければなりません。
- ◆ Java クライアントを使用する場合は、Sun Microsystems Java 2 (JRE 1.4 以上)がインストールされていなければなりません。
- ◆ ログサーバを使用する場合は、Microsoft Jet OLEDB 4.0 以上がインストールされていなければなりません。
- ◆ 下表に示された解像度とリフレッシュレートのノンインターレース信号にのみ対応しています。

解像度	リフレッシュレート
640 × 480	60, 70, 75, 85, 90, 100, 120
720 × 400	70, 75
800 × 600	56, 60, 70, 75, 85, 90, 100
1024 × 768	60, 70, 75, 85, 90, 100
1152 × 864	60, 70, 75, 85
1280 × 1024	60, 70, 75
1600 × 1200	60

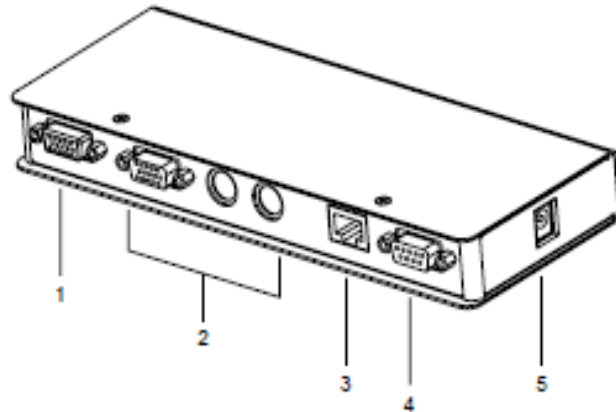
## 第 2 章 ハードウェアセットアップ

### フロントパネル



1. リセット / ファームウェアアップグレードスイッチ	このスイッチを押した状態を維持し、CN-6000 の電源をオンにすることにより、ファームウェアアップグレードモードになります。データ転送速度が 10Mbps 時は、LED ライトがグリーンに点灯します。
2. データスピード LED	データ転送速度が 100Mbps 時は、LED ライトがオレンジに点灯します。
3. リンク LED	クライアントソフトウェアがデバイスにアクセスしているときは LED ライトの点灯がグリーンになります。
4. 電源 LED	CN-6000 の電源がオン、操作可能な状態で LED ライトが点灯します。

## リアパネル



1. KVM ポート	KVM スイッチあるいはコンピュータに接続された KVM ケーブル (パッケージに同梱) を、こちらへ接続します。
2. ローカルコンソールポート	CN-6000 をローカル接続で操作する場合、こちらのポートを使用します。キーボード・モニター・マウスを接続する各ポートは、PC99 準拠の カラーリングが施されています。
3. RJ-45 ポート	ネットワークに接続されたカテゴリ 5 LAN ケーブルを接続します。
4. RS-232 ポート	RS-232 ポートは現在のところ未使用です。
5. 電源ジャック	電源アダプタのプラグを接続します。

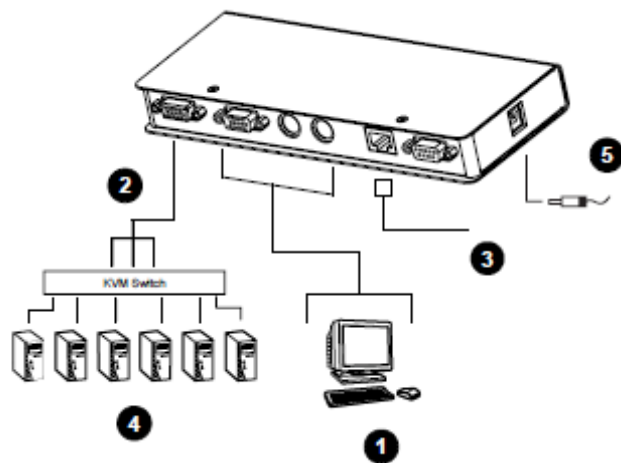
## セットアップの前に



1. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。
2. コンピュータやデバイスへのダメージを避けるために、接続されているすべてのデバイスが正しくアースされているか確認してください。

CN-6000 のセットアップは下図を参考にしながら作業を進めてください。図中の番号は、本文のステップ番号を表しています。

1. ユニットのコンソールポートに、キーボード、モニター、マウスをそれぞれ正しく接続します。
2. KVM ポートにパッケージ付属の KVM ケーブルを接続し、キーボード、モニター、マウスに分かれたケーブルの先端を KVM スイッチあるいはコンピュータに接続します。
3. RJ-45 ポートに、LAN・WAN からのケーブルを接続します。
4. 電源アダプタのケーブルを電源ジャックに接続し、その後、電源アダプタを電源コンセントに接続します。
5. KVM スイッチあるいはコンピュータの電源をオンにします。



## 第 3 章 CN-6000 へようこそ

CN-6000 の操作は web ブラウザベースとなっています。

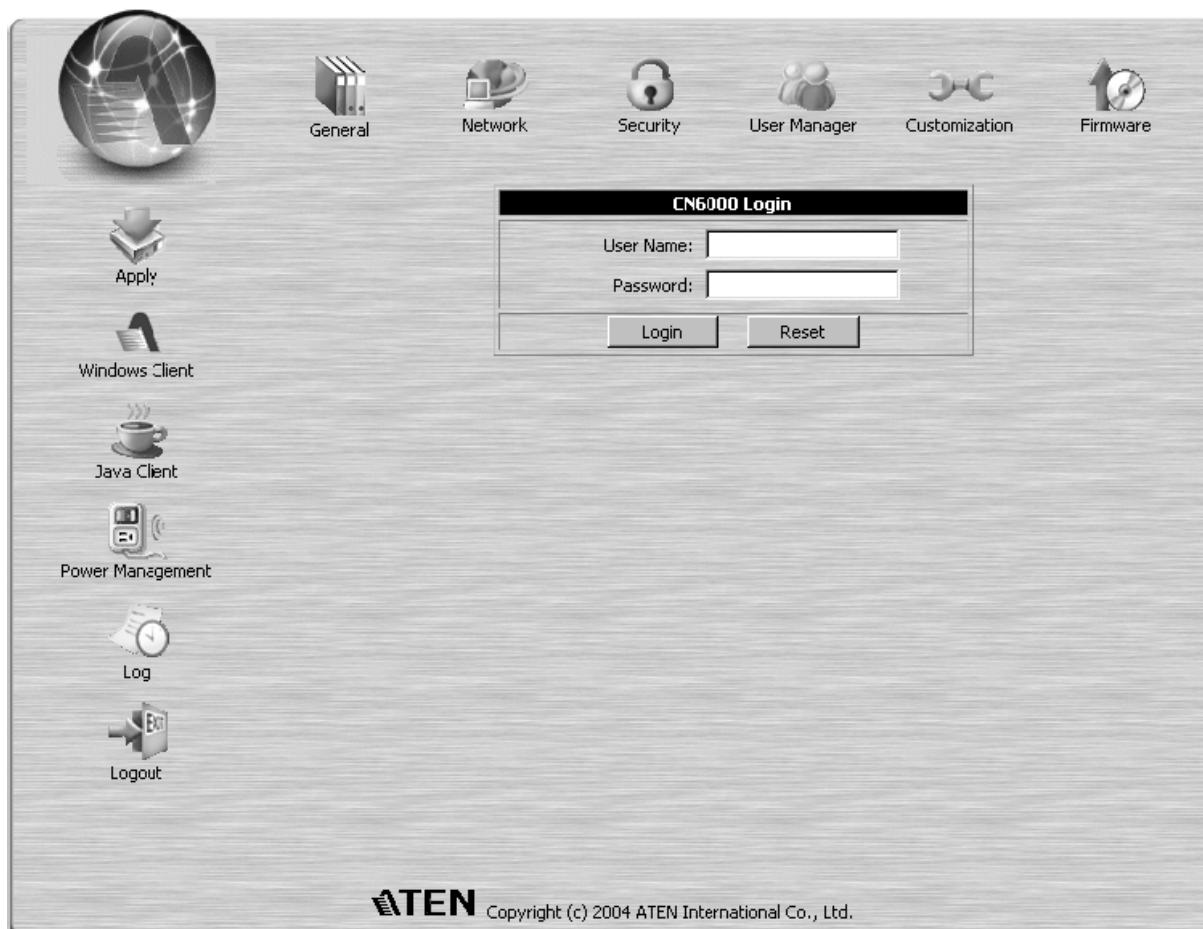
### ログイン

1. お使いの web ブラウザを開き、ブラウザのアドレスバーに接続する CN-6000 の IP アドレスを直接入力してください。

注意:

1. CN-6000 の管理者に IP アドレスを提供してもらってください。
2. もしあなたが管理者で、初回起動時のログインを行う場合は、CN-6000 の IP アドレスを指定する方法が P.46 に示されていますのでご参照ください。

2. セキュリティアラートダイアログボックスが表示されます。認証を受け入れると CN-6000 ログインページが表示されます。



3. CN-6000 の管理者に与えられた有効なユーザーネームとパスワードを入力し、「Login」をクリックして進んでください。

**注意:**

1. 管理者として CN-6000 に初めてログインする場合、デフォルトのユーザーネームとデフォルトパスワードを使用してください。

**デフォルトユーザーネーム: administrator**

**デフォルトパスワード: password**

セキュリティ上の問題から、お客様はデフォルトの設定を変更して固有のユーザーネームとパスワードを設定されることを強く推奨します (P.25 の User Manager をご参照ください)。

2. もしログインユーザーネームやパスワードが無効な場合、以下のメッセージが表示されます。







*Invalid Username or Password. Please try again.*

このメッセージが表示された場合は、ユーザーネームやパスワードの入力に間違いがないか確認してください。

## 画面説明

画面上部にはアドミニストレーターユーティリティにリンクしたアイコンが水平に表示されており、CN-6000 の設定を管理します。このアイコンに対するユーザーの操作権限はログイン情報に依存します (P.25 の User manager をご参照ください)。管理機能の詳細については次章で説明します。

画面左には CN-6000 の操作を行うアイコンが垂直に表示されています。機能詳細は以下の表をご参照ください：

アイコン	機能
	アドミニストレーターダイアログボックスで行った設定変更について保存します (第 4 章アドミニストレーションをご参照ください)。この機能は変更を保存するのみで、現在の環境には反映しません。変更を反映させるにはユーザーが Reset on exit (詳細は P.27) を行い、ログアウトしなくてはなりません。
	Windows を使用して CN-6000 にアクセスしているユーザーが、直接あるいは KVM スイッチで接続されたサーバをリモートコントロールできるようにします。
	プラットフォームから独立した Java クライアントを使用して、Java をインストールしたユーザーが CN-6000 に直接接続されたサーバ、KVM スイッチに繋がれたサーバを遠隔地から操作できるようにします。
	パワーオーバーザネット™ モジュールがお使いのシステムに導入されているとき、このアイコンをクリックするとモジュールにアクセスすることができます。
	CN-6000 のすべてのイベントはログファイルに記録されます (詳細は P.20 のネットワークの項をご参照ください)。このアイコンをクリックするとログファイルが画面に表示されます。
	このアイコンをクリックすると CN-6000 のセッションからログアウトします。 注意: セッション終了時のログアウト操作は非常に重要です。適切にログアウトしないと、CN-6000 が再びアクセスされてタイムアウト設定の期限が切れるまで待たなくてはなりません。詳細は P.27 のカスタマイズダイアログボックスの下の Time out control をご参照ください。

## 第 4 章 アドミニストレーション

CN-6000 の機能設定を行うアドミニストレーターユーティリティは、CN-6000 のブラウザページ上部に水平に並んだアイコンで提供されています。



この章ではそれぞれの機能を個別に説明します。設定を変更する場合は、画面左上部の **Apply** アイコンをクリックして、CN-6000 の設定ファイルに保存してください。変更された設定を有効にするには、Reset on exit ボックス (P.27 の Customization を参照) にチェックを入れてログアウトしてください。

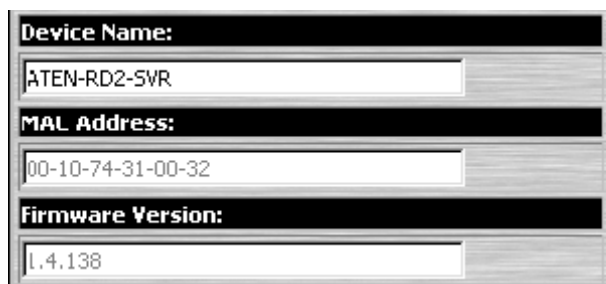
注意:

設定変更の権限が与えられていないユーザー (P.25 の User manager をご参照ください) の場合、アドミニストレーター設定について閲覧することは可能ですが、フィールドに入力したり設定を変更したりすることはできません。

## General

---

ログインすると最初に General メニューが表示されます。



The screenshot shows a web interface with three input fields. The first field is labeled 'Device Name:' and contains the text 'ATEN-RD2-SVR'. The second field is labeled 'MAC Address:' and contains the text '00-10-74-31-00-32'. The third field is labeled 'Firmware Version:' and contains the text '1.4.138'.

これがアドミニストレーターページの最初の画面で、CN-6000 のステータスに関する情報が表示されます。

各フィールドの説明は以下の表をご参照ください。

<b>Device Name</b>	複数の CN-6000 を導入している場合、システムの管理を簡単にするため、個々のユニットに名前を付けることができます。CN-6000 に名前を付けるときはこのフィールドに入力してください(英数、最大 15 文字)。
<b>MAC Address</b>	CN-6000 の MAC アドレスを表示します。
<b>Firmware Version</b>	CN-6000 の現在のファームウェアバージョンを表示します。

注意:

CN-6000 のファームウェアの最新版はウェブサイトからダウンロードすることができます。詳細は P.28 をご参照ください。

## Network

---

ネットワークメニューは CN-6000 のネットワーク環境を設定する際に使用します。

The screenshot shows a network configuration window with three sections:

- Access Port:** Program: 9000, Java: 9002
- IP Address:** Radio buttons for "Obtain an IP address automatically" (selected) and "Set IP address manually".
- Log Server:** MAC Address: 000124D003E5, Port: 9001

### Access Port

システムにファイアーウォールが導入されている場合、管理者はファイアーウォールの設定で許可されたポート番号を指定することができます。ユーザーはログインの際に IP アドレスの一部分のポート番号を入力しなくてはなりません。入力するポート番号が正しくないと CN-6000 を見つけることができません。

注意:

ファイアーウォールが導入されていないなら(例:イントラネット)、この項目は設定する必要はありません。

フィールドの説明は以下の通りです。

<b>Program</b>	管理者および Windows クライアントソフトウェアが接続するとき指定するポート番号です。有効なエントリは 1024–60,000 です。
<b>Java</b>	Java クライアントが接続するときのポート番号です。有効なエントリは 0–65,535 です。

## IP Address

CN-6000 は起動時に動的 IP アドレスが割り当てられます (DHCP) が、静的 IP アドレスを指定することも可能です。

◆ 動的 IP アドレスを取得するには、ラジオボタンの Obtain an IP address Determination にチェックしてください。

注意: もし CN-6000 が、DHCP がアドレスを割り当てるネットワークに接続されていて、なおかつ IP アドレスを指定する必要がある場合は、P.46 の IP Address Determination をご参照ください。

◆ 静的 IP アドレスを使用する場合はラジオボタンの Set IP address manually をオンにし、使用する IP アドレスを入力してください。

## Log Server

ログイン情報や内部での動作内容など、CN-6000 の重要なイベントは自動的にログファイルに記録されます。

ログファイルとして記録するには、記録先サーバの MAC アドレスとポート番号を明確に設定する必要があります。詳細は第 7 章ログファイルをご参照ください。

## Security

---

Security メニューは、CN-6000 へのアクセス権限を設定します。



- ◆ IP フィルターおよび MAC フィルターは、CN-6000 への特定の IP アドレスおよび MAC アドレスからのアクセスを許可/禁止します。
- ◆ Default Java program name にて、管理者はユーザーが Java クライアントから CN-6000 にアクセスするときに、ユーザーに接続させるページ名の設定ができます。Java クライアントを使用する場合、ユーザーはアクセス時に IP アドレスとこのページ名を併せて入力しないとアクセスは許可されません。セキュリティ向上のためにも適宜このページ名を変更することをお勧めします。

**注意:**

ここでページ名の設定を行わないと、IP アドレスの指定をするだけで誰でも CN-6000 へアクセスすることができてしまい、重大なセキュリティ問題となります。

- ◆ Admin Station Filters にて、アドミニストレーターユーティリティからアクセス可能な MAC アドレスを指定できます。何も指定しない場合は、いかなる制限もありません。

**注意:**

アドミニストレーションフィルタリングはアドミニストレーターユーティリティの AP(アプリケーション)バージョンのみでサポートされています。AP バージョンは同梱の CD で提供しています。

## Filtering

ユーザーIP、ユーザーMAC、アドミニストレーターMACのそれぞれのカテゴリに対して、最大100のフィルタリングが可能です。ユーザーステーションフィルタリング(IP、MAC)では、指定したアドレスをinclude(含める)、exclude(除外する)設定ができます。

◆ include ボタンがチェックされている場合は、指定のアドレスもしくは指定範囲のアドレスが CN-6000 へのアクセスを許可されています。それ以外のアドレスはすべて拒否されています。

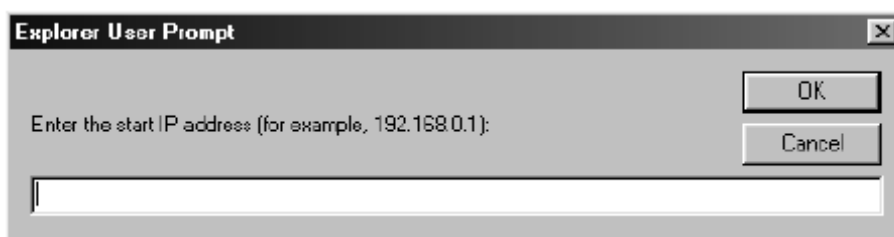
◆ exclude ボタンがチェックされている場合は、指定のアドレスもしくは指定範囲のアドレスが CN-6000 へのアクセスを拒否されています。それ以外のアドレスはすべて許可されています。

### ユーザーステーション IP アドレスフィルタリング

ユーザーステーションの IP フィルタリングを有効にするには、IP Filter enable にチェックを入れてください。

フィルターを追加するには:

1. フィルターの include(含める)、exclude(除外する)を選択してください。
2. 「Add」を押してください。下図のようなダイアログボックスが表示されます。



3. フィルターするアドレスをダイアログボックスに入力し、「OK」を押してください。IP アドレスは単独でも範囲指定でもフィルタリングできます。

OK を押すと、次に下図のようなダイアログボックスが表示されます。



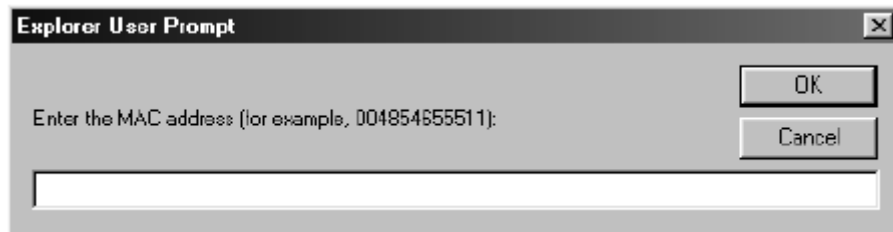
4. フィルタリングする IP アドレスがひとつだけなら、前項の start IP と同じアドレスを入力してください。範囲指定をする場合には範囲の終わりのアドレスを入力してください。
5. この手順を繰り返して、フィルタリングしたいアドレスを追加していきます。

## ユーザーステーション MAC アドレスフィルタリング

ユーザーステーションの MAC フィルタリングを有効にするには、MAC Filter enable にチェックを入れてください。

フィルターを追加するには:

1. フィルターの include(含める)、exclude(除外する)を選択してください。
2. 「Add」を押してください。下図のようなダイアログボックスが表示されます。



3. フィルターするアドレスをダイアログボックスに入力し、「OK」をクリックしてください。
4. この手順を繰り返して、フィルタリングしたいアドレスを追加していきます。

フィルターを削除したい場合には、項目を選択して「Remove」を押してください。フィルターを編集する場合には、項目を選択して「Edit」を押してください。Add ダイアログボックスと似た Edit ダイアログボックスが表示されますので、古いアドレスをクリアしてから新しいアドレスを入力してください。

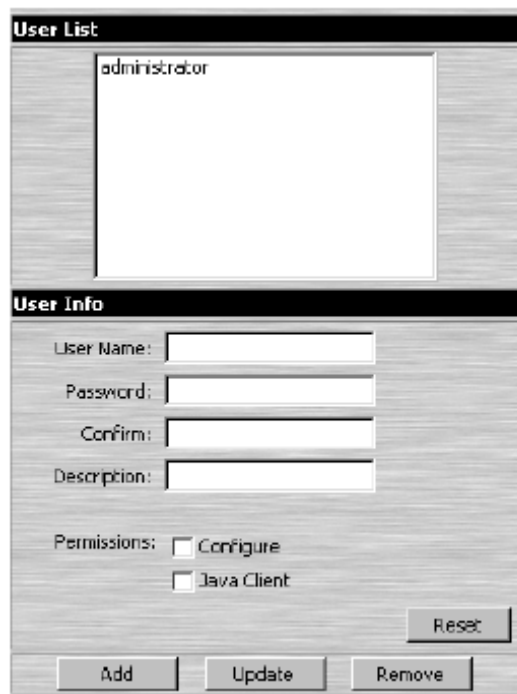
## アドミニストレーターステーションフィルタリング

アドミニストレーターステーションフィルタリング ダイアログボックスの外観は、ユーザーステーション MAC フィルタリングのダイアログボックスと同様です。

## User Manager

---

User Manager メニューは、各ユーザーのプロファイルを管理します。



The screenshot displays the User Manager interface. At the top, there is a 'User List' section with a text box containing the name 'administrator'. Below this is the 'User Info' section, which includes four input fields: 'User Name', 'Password', 'Confirm', and 'Description'. Underneath the input fields are two checkboxes for 'Permissions': 'Configure' and 'Java Client'. A 'Reset' button is located to the right of the 'Permissions' section. At the bottom of the interface, there are three buttons: 'Add', 'Update', and 'Remove'.

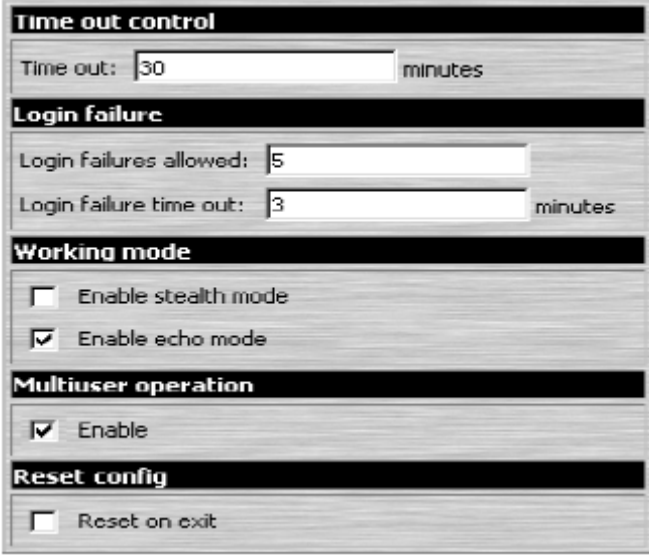
- ◆ CN-6000 にアクセスできる、最大 64 人までのユーザープロファイルが作成できます。
- ◆ ユーザーの追加は、「Add」ボタンを押し、表示された画面にユーザー管理に必要な項目を入力してください。
- ◆ ユーザーの削除は、ユーザーを選択し「Remove」ボタンを押してください。
- ◆ ユーザープロファイルを修正するときは、ユーザーを選択し「Edit」ボタンを押します。表示されたダイアログ内のプロファイルを修正してください。
- ◆ 「Reset」ボタンを押すと User Info ダイアログボックスのフィールドに表示されている内容をすべて消去します。

プロフィールの各項目の説明は、下記の表をご参照ください。

<b>Username</b>	英数最小 6 文字、最大 15 文字で作成してください。
<b>Password</b>	英数最小 8 文字、最大 15 文字で作成してください。
<b>Confirm Password</b>	パスワードに間違いがないことをお確かめください。すべての入力 が一致する必要があります。
<b>Description</b>	必要があればユーザーについての追加情報を入力してください。
<b>Permissions</b>	デフォルトの設定では、すべてのユーザーが Windows クライア ントソフトウェア経由で CN-6000 にアクセス可能となります。 1. Configure にチェックが付いていると、このユーザーは管理 権限を持ち、CN-6000 にアクセスし設定変更が可能となり ます。 2. Java Client にチェックが付いていると、このユーザーは Java Client から CN-6000 へアクセス可能となります。

## Customization

Customization メニューでは、管理者はタイムアウト・ログイン失敗・動作モード・リセットに関する設定を行うことができます。



The screenshot shows a configuration window with the following sections and settings:

- Time out control**: Time out: 30 minutes
- Login failure**: Login failures allowed: 5; Login failure time out: 3 minutes
- Working mode**:
  - Enable stealth mode
  - Enable echo mode
- Multiuser operation**:  Enable
- Reset config**:  Reset on exit

Customization の各項目の説明は、下記の表をご参照ください。

<b>Time out Control</b>	CN-6000 が現在アクセス権を持つコンピュータから、ある一定時間以上何も入力データを受け取らなかった場合、接続は切断され他のユーザーがアクセス可能な状態になります。
<b>Login failure</b>	Login failures allowed: ログイン失敗時にリモートコンピュータからの連続したログイン試行回数を指定します。 Login failure time out: ログインに連続して失敗したコンピュータは、ここで指定された時間が経過するまでは再度ログインすることができません。
<b>Working mode</b>	Enable stealth mode にチェックがされている場合は、CN-6000 に対して ping を実行することができません。 Enable Echo mode にチェックがされていない場合は、エコーが無効になりローカルネットワーク内に CN-6000 ユニットが表示されません。詳細は同梱の CD で配布されているアプリケーション版マニュアルをご参照ください。
<b>Multiuser Operation</b>	Enable にチェックがされている場合は、CN-6000 に複数のユーザーが同時にログインして操作することが可能になります。
<b>Reset config</b>	Reset on exit にチェックをして「OK」ボタンを押すと、ユーザーログアウト時に CN-6000 をリセットして、新たに設定した項目の変更を反映します。リセット後は再度ログインする前に 30～60 秒程度お待ちください。

## Firmware

---

CN-6000 の最新版のファームウェアは弊社 web サイトよりダウンロードすることができます。

<http://www.atenjapan.jp/>

ファームウェアのアップグレードは、下記の手順に従ってください：

1. 最新版のファームウェアをダウンロードしてコンピュータに保存します。Firmware アイコンをクリックすると以下のようなダイアログボックスが表示されます。



2. 「Browse」ボタンを押し、ダウンロードしたファームウェアのファイルを保存したディレクトリまで移動し、ファイルを選択してください。
3. 「Upload」を押してください。
4. アップロードが完了したら、ウィンドウ左上部の Apply アイコンをクリックしてください。
5. Reset on exit にチェックをします。
6. 再度ウィンドウ左上部の Apply アイコンをクリックしてください。
7. ウィンドウ右上部の Logout アイコンをクリックして、CN-6000 をリセットしてください。

## 第 5 章 Windows クライアント

CN-6000 に Windows クライアントソフトウェアでアクセスするには：

1. ログイン後、ウィンドウ左部にある Windows Client アイコンをクリックしてください。

注意：

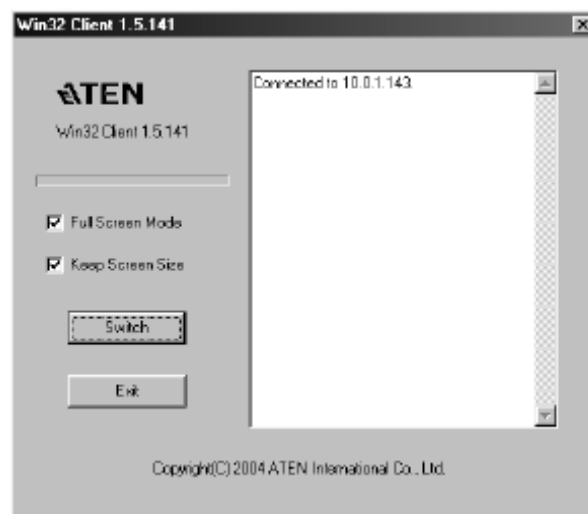
DirectX 7.0 以降がコンピュータにインストールされている必要があります。もしインストールされていない場合は、クライアントプログラムは作動しません。

2. ダイアログボックスが表示されるので、「開く」を押してください。

注意：

1. ブラウザが直接プログラムを実行することができない場合は、一度ローカルディスクに保存してください。それからブラウザで CN-6000 の web ページを開いたまま、ローカルディスクからプログラムを実行してください。
2. ローカルディスクに保存してから実行する場合、セキュリティ上の設定によって以前にダウンロードしたプログラムをそのまま実行することはできません。CN-6000 にアクセスするときには、毎回有効なユーザーネームとパスワードでログインし、新たにプログラムをダウンロードしてから実行してください。

3. CN-6000 へのアクセスが確立されると、下記のような画面が表示されます。



注意:

1. Full Screen Mode が有効になっている場合、リモートディスプレイにはローカルディスプレイの画面が最大化されて表示されます。

2. Full Screen Mode が無効になっている場合、リモートディスプレイにはローカルディスプレイの画面がウィンドウで表示されます。リモートスクリーンがウィンドウサイズよりも大きい場合は、マウスポインタを表示したい方向のウィンドウ端まで移動させれば、その方向にスクロールします。

タイトルバーのピンアイコンをクリックするとウィンドウをリモートディスプレイで最前面に表示させておくことができます。

3. Keep Screen Size が有効になっている場合、リモートディスプレイでスクリーンサイズを変更することができません。

◆ リモートディスプレイの解像度が小さい場合、ローカルディスプレイの中央部分のみが表示されます。ウィンドウ外の領域を表示したいときは、マウスポインタを表示したい方向のウィンドウ端まで移動させれば、その方向に画面がスクロールします。

◆ リモートディスプレイの解像度が十分に大きい場合、ローカルディスプレイはウィンドウの中央に表示されません。

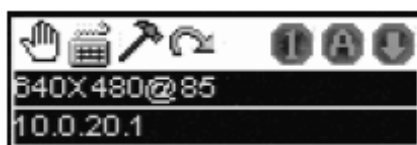
4. 「Switch」を押すとコンソールコントロールを CN-6000 が接続されたユニットに切り替えます。

## オペレーション






CN-6000 への接続が確立されると、ローカルシステムのビデオ出力が、リモートモニタに表示されます。同時にリモートで行うキーボード/マウス入力の手続きはローカルシステムへ送られます。

### OSD コントロールパネル

画面右端に、OSD (オンスクリーンディスプレイ) の小さなパネルが表示されます。



パネルは上部 1 行のアイコンバーと下部 2 行のテキストバーで構成されています。初期画面では、テキストバーにはリモートコンソールの VGA 解像度と IP アドレスが表示されています。マウスポインタをアイコンの上に移動させると、テキストバーにそのアイコンの機能が表示されます。アイコンの機能の詳細については下記の表をご参照ください。

アイコン	機能
	このアイコンをクリック&ドラッグすることによって OSD スクリーンを画面の好きな場所に移動することができます。
	クリックするとホットキーセットアップダイアログボックスが表示されます。詳細は P.37 をご参照ください。
	クリックするとビデオアジャストメントダイアログボックスが表示されます。詳細は P.37、38 をご参照ください。
	クリックするとリモートシステムの Windows クライアントコントロールを終了します。
[ 空白スペース ]	カーソルを空白のスペースに移動させると、リモートシステムの VGA 解像度と IP アドレスが表示されます。
	これら 3 つのインジケータはリモートコンピュータの Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock ステータスを表しています。アイコンをクリックするとそれぞれのステータスを切り替えます。 注意: CN-6000 に初めて接続したときには、インジケータの表示は正しくないと思われます。ローカルの状態と同期させるために、インジケータをクリックして設定してください。

## キー入力

CN-6000 にリモートアクセス中、[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の組み合わせを除いて、すべてのキーボード入力は CN-6000 経由でローカルコンピュータに対して実行されます。上記の 2 つの組み合わせは、リモートコンピュータにおけるアプリケーション切替えおよびシステムの問題解決のために保持されているので、CN-6000 が接続されているローカルシステムに対して[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の機能を実行したい場合には、任意のファンクションキー（[F1]から[F12]までいずれも可）が[Alt]キーの代わりに設定します。

例えば[F12]を使用する場合（デフォルト設定）、[F12] + [Tab]によってローカルシステムのアプリケーション切替えを行い、[Ctrl] + [F12] + [Delete]で強制終了等の機能呼び出すことができます。[Alt]代替キーの詳細は P.37 のホットキー組み合わせの設定をご参照ください。

注意:

ファンクションキーのいずれかが[Alt]代替キーとして設定されている場合、絶対にそのキーを他の機能呼び出しに使用しないでください。

## マウス同期

CN-6000 への接続を閉じるまで、リモートコンピュータの通常のマウス機能はサスペンド状態になり、マウス入力データはすべてローカルシステムへ送信されています。

時折、特に解像度の変更を行った場合など、リモートでのマウス入力とローカルシステムにおけるマウスポインタの挙動が一致しない現象が発生することがあります。このような場合にマウスを同期するには、以下の 3 方法のいずれかをお試しください。

- 1) マウスポインタを OSD パネルの矢印の上まで移動させ、右クリックします
- 2) マウスポインタを OSD パネル上まで移動させ、それからパネル外に移動させます
- 3) ビデオアジャストメント機能の Auto Sync を実行します（詳細は P.37、38 のビデオアジャスト機能を参照）

もしこれらの方法で問題が解決しない場合は、以下の手順に従ってください:

1. Adjust Mouse ホットキーで Adjust Mouse を実行してください。
2. リモートマウスポインタをローカルマウスポインタの上に正確に重ね合わせ、クリックしてください。

以上のどの方法でも問題が解決しない場合は、リモートコンピュータのマウス動作に関する設定が原因である可能性があります。次ページの図に従って設定を変更してください。

## 【 Windows 2000／Me 】

[ スタートボタン ] → [ 設定 ] → [ コントロールパネル ] → マウスのプロパティ を開きます。  
“ 動作 ” タブを開きます。

以下のように設定します。

速度	中間
加速	なし
既定のボタンに移動	チェックをはずす



次に、デスクトップの四隅をなぞるように動かすと、マウスポインタが同期されます。

## 【 Windows XP / 2003 】

[ スタートボタン ] → [ 設定 ] → [ コントロールパネル ] → マウスのプロパティ を開きます。  
“ ポインタオプション ” タブを開きます。

以下のように設定します。

速度	中間に設定 「ポインタの精度を高める」のチェックをはずす
動作	チェックをはずす
表示	すべてのチェックをはずす



次に、デスクトップの四隅をなぞるように動かすと、マウスポインタが同期されます。

## ホットキー

### ホットキーセットアップユーティリティ

キーボード、ビデオ、マウスの設定に関する様々な機能は、ホットキー経由で操作することができます。ホットキーセットアップユーティリティは OSD コントロールパネルのキーボードアイコンをクリックすることで呼び出せます。セットアップユーティリティ画面は下記のようになっています。

左側のウィンドウにはホットキーアクションが表示されています。右側のウィンドウには対応するホットキーが表示されています。



ホットキー機能に関する詳細は下記の表をご参照ください。

アクション	機能説明
Exit remote location	CN-6000 との接続を切断し、リモートコンピュータの操作に戻ります。
Adjust Video	ビデオアジャストユーティリティを呼び出します。
Toggle OSD	OSD 画面のオン/オフを切り替えます。
Toggle mouse display	ローカルとリモート画面でマウスポインタが 2 つ表示されているために、アクティブなマウスポインタがどれか分かりにくくなる状況が起こります。この機能を使うと非アクティブなポインタを最小化して無視します。この機能が有効になっているとき、もう一度このホットキー操作を行うと元の状態に戻ります。
Adjust mouse	この機能は解像度変更後、ローカルとリモートのマウス動作を同期します。この機能を有効にしたあと、リモートのマウスポインタをローカルのマウスポインタ上に正確に重ね合わせ左クリックすると、同期が完了します。
Substitute Alt key	CN-6000 と接続中は、[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Delete]を除いたすべてのキーボード入力が CN-6000 側に送られます。ローカルシステムに対して[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の機能を実行したい場合には、任意のファンクションキーが[Alt]キーの代わりに設定できます。 例えば[F12]を使用すると、[F12] + [Tab]、[Ctrl] + [F12] + [Delete]で操作が行えます。 デフォルトでは[F12]キーが割り当てられています。

注意:

ホットキー操作を行うとき、使用するキーは押した後すぐに離すようにして、決して押しっぱなしにしないでください。

## ホットキー設定変更

もしデフォルトで設定されているホットキーの組み合わせで不都合がある場合、下記の手順で任意のファンクションキーをホットキーに割り当てることができます。

1. ホットキーセットアップ画面で変更したいホットキーアクションを選択し、「Start」をクリックします。
2. [F1]～[F12]の任意のキーを入力します(1回だけ押してください)。入力したキーが画面左のフィールドに表示されます。
3. 使用するキー入力を終わったら「Stop」をクリックします。
4. 「Set」をクリックします。
5. その他の変更したいホットキーについても同様の手順を繰り返します。

注意:

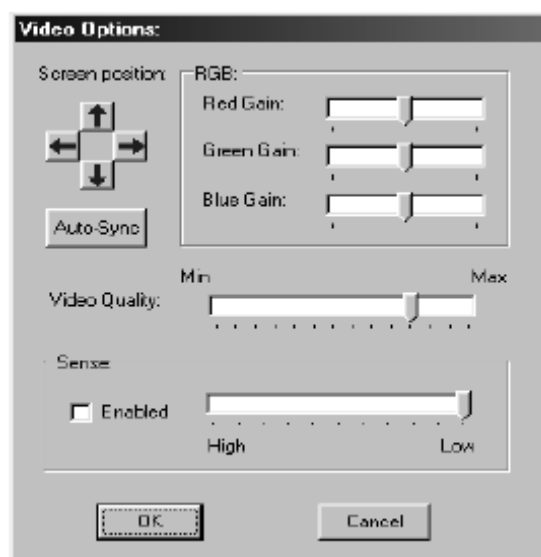
同じ組み合わせのファンクションキーを用いても、入力する順序を入れ替えれば複数のホットキー操作を割り当てることができます。ただし、この場合には最初に入力するキーを変えてください。他のホットキー入力と重複しないよう気をつけて設定してください。

例: 以下のように[F1] [F2] [F3]のみを用いて複数の操作を割り当てることができます。

- [F1] [F2] [F3]
- [F2] [F1] [F3]
- [F3] [F2] [F1]

## ビデオアジャスト

Video Options を設定することによって、お使いの環境に合わせてリモートモニターの中でのローカルディスプレイの表示位置と画質を調整できます。OSD コントロールパネルのハンマーアイコンをクリックするか、Adjust Video ホットキー(P.36 を参照)を入力すると、以下のような画面が表示されます:



設定オプションの詳細については下記の表をご参照ください。

オプション	説明
Screen Position	矢印ボタンをクリックすることによってローカルディスプレイの水平方向、垂直方向の調節をします。
Auto-Sync	<p>Auto-Sync をクリックすることによってローカルディスプレイの水平方向、垂直方向をリモートディスプレイに自動同期させます。</p> <p>またローカルとリモートのマウスポインタが同期されていないとき、この機能で同期させることができます。</p> <p>注意: この機能は画面の表示が明るいときでないと十分に効果が発揮されません。</p> <p>自動同期の結果に満足されない場合は、Screen Position の矢印ボタンを使って手動で設定しなおしてください。</p>
RGB	スライダーを使って RGB (レッド、グリーン、ブルー) 値を調節してください。RGB 値が調節されると、イメージの RGB 構成要素が対応して調節されます。
Video Quality	スライダーを使ってビデオの画質を調節してください。値は 20~100 まで変更できます。値がより大きければ画質はより向上しますが、それだけ多くのビデオデータが転送されることになります。
Sense	ローカルディスプレイのガンマ値を補整する場合は、Enable にチェックを入れてスライダーを調節してください。

## 第 6 章 Java クライアント

Javaクライアントは、Java に対応したすべてのプラットフォームから CN-6000 へのアクセスを可能にします。お使いのシステムに Java がインストールされていない場合は、Java 2 は Sun 社の Java web サイトから無料でダウンロードすることができます。

(<http://java.sun.com/>)。

Java クライアントソフトウェアを使用して CN-6000 にアクセスするには：

1. ログイン(P.15 を参照)してから、Java Client アイコンをクリックしてください。
2. ダイアログボックスが表示されるので、「Open」を選択してください。

注意：

もしブラウザで直接 Java クライアントプログラムを開くことができない場合、プログラムファイルを一度ローカルディスクに保存してください。それからブラウザで CN-6000 のページを開いたままで、もう一度ローカルディスクからプログラムを実行してください。

1～2 秒後、認証ダイアログボックスが表示されます：



認証が成功するとリモートシステムの画面がローカルモニタに表示されます：



## オペレーション

---

接続が確立すると、ローカルシステムの画面がリモートモニタに表示されます。あたかも目の前にあるコンピュータを操作するように、ローカルシステムを操作することができます。

Java クライアントのツールバーは、スクリーン下部中央のブランクエリアに隠れています。マウスポインタをこのエリアに移動させると、ツールバーが表示されます。



注意:

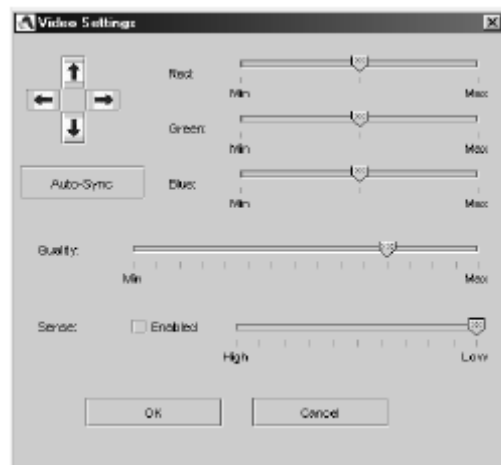
1. **[Alt] + [Tab]**キーでローカルとリモートの操作を切り替えます。
2. ネットワーク転送で発生するラグタイムによって、コンソール入力のローカルシステム画面への反映が多少遅れることがあるかもしれません。ローカルシステムでマウスクリックを行う際など、ポインタの挙動に注意するようにしてください。
3. ネットワーク転送で発生するラグタイムによって、動作の不安定感があるかもしれません。画像や、特に動画の表示遅れやコマ落ちなどが発生する可能性があります。
4. ローカルとリモートのマウスポインタの同期がうまくできない場合は、Mouse Synchronization Button を使ってください。詳細は P.42 をご参照ください。

## ツールバー

スクリーン下部中央のツールバーは、KVM コントロール用の Java アプレットです。以下、ツールバーの左から順に機能を説明します。

## ビデオ

一番左の歯車ボタンをクリックするとビデオ設定のダイアログボックスが表示されます：



各オプションの操作は Windows クライアントのビデオアジャスト機能に準じます。詳細については P.36 をご参照ください。

### 注意：

初めて接続するときは、「Auto-Sync」ボタンを押してマウス同期を行ってください。

## キーパッド

左から 2 番目のボタンをクリックすると、キーパッドが表示されます。

もしリモートのキーボード入力が CN-6000 に送られずローカルシステムに反映されなくなってしまった場合に、このキーパッドを利用してそれらのキー入力の代用をすることができます。



## マウス

時折リモートでのマウス入力と、ローカルシステムのマウスポインタの挙動が同期しなくなってしまう場合があります。そういうときには、左から 3 番目のマウスボタン Fast Mouse Synchronization を押してマウスの同期を行ってください。もしこの方法で解決しない場合は、前ページの Auto-sync を実行してみてください。

もし Auto-sync でも問題が解決しない場合、Windows クライアントのマウス同期の手順(P.36 を参照)に従ってください。

1. Mouse Synchronization ボタンを押します。するとマウスポインタが画面の左上部に移動します。
2. リモートのマウスポインタをローカルのマウスポインタに正確に重ね合わせ、クリックしてください。

## LED ロック

ツールバー中央の 3 つのインジケータは、ローカルコンピュータの Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock ステータスを表しています。アイコンをクリックするとそれぞれのステータスを切り替えます。

注意: 初めて接続するときには、インジケータの表示は正しくないと思われます。ローカルの状態と同期させるために、インジケータをクリックして設定してください。

## i ボタン

このボタンをクリックすると Java クライアントについての情報を表示します。

## ? ボタン

このボタンをクリックすると Java クライアント ヘルプページを表示します。

## Exit

ツールバー右端のこのボタンをクリックすると Java クライアントを閉じてローカルシステム操作を終了します。

## 第7章 ログファイル

CN-6000 ユニットで起こるすべてのイベントはログファイルに記録されます。それらのログは同時に時間情報も記録され、検索可能なデータベースとして作成されます。ログファイルを表示するには、画面左側下部の Log アイコンをクリックしてください。下記のように表示されます：



ログファイルをクリアするには、画面右側下部に表示されている Clear Log アイコンをクリックしてください。

# 付録

## 製品仕様

機能		仕様	
コネクタ	コンソール ポート	キーボード	ミニ DIN 6 ピン メス × 1
		マウス	ミニ DIN 6 ピンメス × 1
		ビデオ	HDB-15 メス × 1
	コンピュータ	SPHD-15 メス × 1	
	LAN	RJ-45 × 1	
	PON *	RS-232 オス × 1	
	電源	DC 電源ジャック × 1	
LED	電源	オレンジ × 1	
	リンク	グリーン × 1	
	10/100Mbps	グリーン/オレンジ 2 色 × 1	
電源仕様/消費電力		DC5V 2.6A / 7W	
VGA 解像度		最大 1600 × 1200 @ 60Hz	
プロトコル		10BaseT Ethernet; 100BaseT Fast Ethernet TCP/IP; HTTP	
動作環境		動作時: 0 ~ 50°C 保管時: -20 ~ 60°C 湿度: 0 ~ 80%RH 結露なきこと	
ケース材料		メタル	
重量		0.51kg	
サイズ(W×D×H)		200 × 80 × 25 mm	

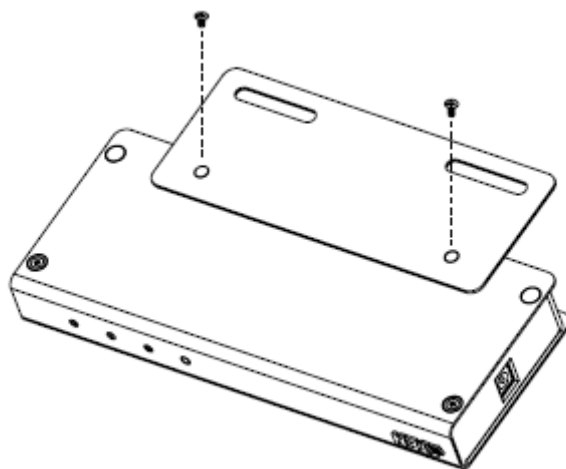
\* Power Over the Net: パワーオーバーザネット™

## ラックマウント

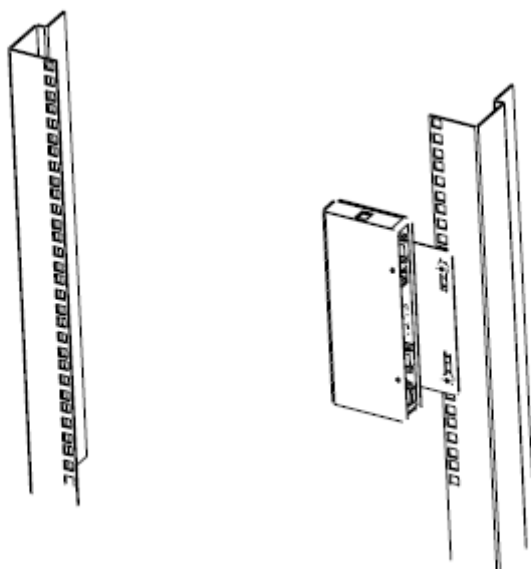
---

便利で柔軟性のあるラックマウント金具を使用して、CN-6000 をシステムラックに取り付けることが可能です。金具の装着は下記の手順に従って行ってください：

1. 図のように、ユニットの上部もしくは下部にラックマウント金具をネジ止めしてください。



2. システムラックの任意の場所へネジ止めしてください。



## IP アドレス

---

管理者として初めて CN-6000 にログインするときには、ユーザーが CN-6000 に接続できるように IP アドレスに関する設定を行わなくてはなりません。下記の 3 つの方法から選択して適切に設定してください。いずれの場合でも、CN-6000 はネットワークの同じセグメントに位置している必要があります。もし CN-6000 のアドレスが DHCP によって自動的に割り当てられる場合は、P.48 の方法 3 に従ってください。

CN-6000 に接続してログインが成功した後に、Network Setting ダイアログボックスにて CN-6000 の静的ネットワークアドレスを設定することができます (P.20 をご参照ください)。もし DHCP によって割り当てられたアドレスを変更したい場合には、P.48 の方法 3 に従ってください。

### 方法 1 (静的 IP アドレス):

CN-6000 の初回起動時、起動後 30 秒程度は DHCP を検出できません。そのときアドレスは自動的に **192.168.0.60** に設定されます。

1. ご使用になるコンピュータの IP アドレスを **192.168.0.xxx** に設定してください。  
xxx の部分には、60 以外の 0~255 までの任意の数字を指定してください。
2. スイッチのデフォルト IP アドレス (**192.168.0.60**) をブラウザの URL バーに直接入力してください。
3. 接続とログインが成功したら、CN-6000 のネットワークにおけるセグメントに対応した適切な静的 IP を指定してください。
4. ログアウトして、コンピュータの IP アドレスをリセットしてください。

## 方法 2 (静的 IP アドレス):

静的 IP アドレスは ARP コマンドによっても指定することができます。

1. CN-6000 の電源がオンになっている場合は、電源をオフにして電源アダプタケーブルを抜いてください。
2. 下記の ARP コマンドを実行してください。

```
arp -s <desired ip address> <CN-6000's MAC address>
```

注意:

IP アドレスは CN-6000 が接続されるネットワークセグメントの中で適切なものを指定してください。

3. CN-6000 の電源をオンにします。
4. ブラウザから指定した IP アドレスを利用して CN-6000 にログインしてください。

注意:

CN-6000 の電源がオンになってから 30 秒以内にログインしなければなりません。

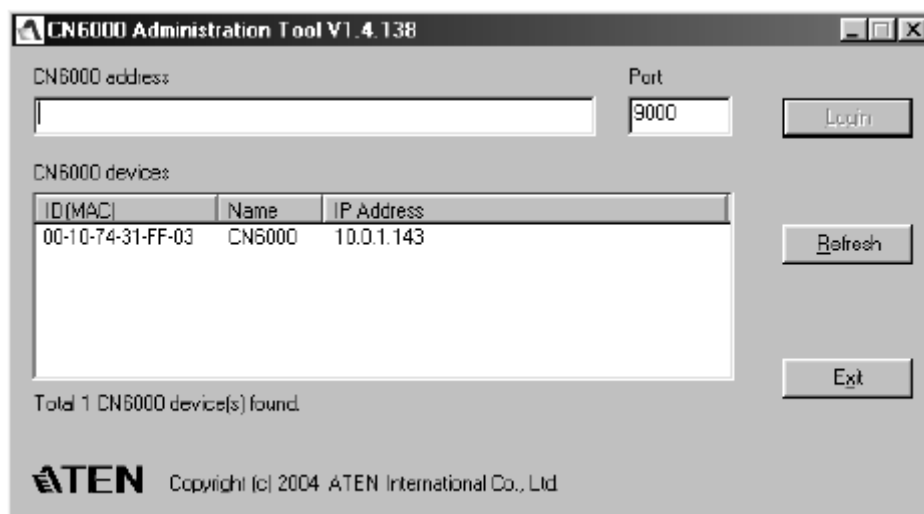
### 方法 3 (動的 IP アドレス DHCP 割り当て):

お使いのコンピュータが Windows なら、CN-6000 の DHCP によって割り当てられた IP アドレスは AdminTool ユーティリティによって決定されます。AdminTool ユーティリティは同梱の CD で配布されています。

1. ユーティリティをお使いのコンピュータにインストールするには、CD に格納されている AdminTool Utility アイコンをダブルクリックしてください。インストールが完了すると、デスクトップに CN6000 AdminTool アイコンが表示されます。

2. CN6000 AdminTool アイコンをダブルクリックします。

ユーティリティは自動的にネットワークセグメントを検査します。ユーティリティ画面は下図のように表示されます:



下部フィールドの右側に表示されているのが、DHCP が割り当てた IP アドレスです。

注意:

1. もしフィールドに 1 台以上のデバイスが表示されている場合は、必要な MAC アドレスをひとつだけピックアップしてください。CN-6000 の MAC アドレスはパネルの下部に表示されています。
2. リストが空白の場合や、お使いのデバイスが表示されていない場合は、「Refresh」ボタンを押して情報を再取得してください。

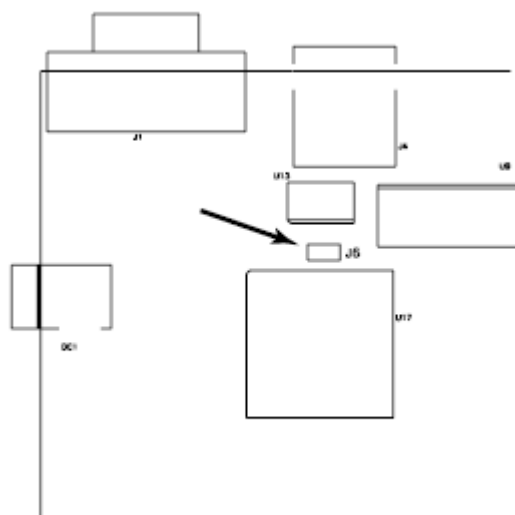
3. 「Exit」をクリックしてユーティリティを終了します。

## ログイン情報の消去

---

パスワードを忘れる、その他何らかの理由でアドミニストレーター権限のログインができなくなった場合、下記の手順ですべてのログイン情報を消去することができます。

1. CN-6000 の電源をオフにし、ケースを取り外します。
2. 下図に示した位置にある、J6 のジャンパスイッチをショートさせます。



3. そのまま電源をオンにします。
  4. フロントパネルの LED が点滅し、ログイン情報の消去完了をお知らせします。
  5. J6 ジャンパスイッチのショートを解除します。
  6. ケースを元通りにして、CN-6000 を起動します。
- CN-6000 起動後、デフォルトのユーザーネームとパスワード(P.16 を参照)でログインできるようになります。

## トラブルシューティング

### 一般的な操作

症状	解決方法
動作が不安定	CN-6000 に KVM スイッチが接続されている場合は、CN-6000 に接続する前に KVM スイッチの電源がオンになるように注意してください。 リセットボタンを 3 秒以上押したままにしてください。
マウスポインタの表示で混乱する	ローカルとリモートの 2 つのマウスポインタが表示されて操作の上で分かりにくい場合は、Toggle Mouse Display 機能を使用して非アクティブなマウスポインタを最小化することができます。詳細については P.36 をご参照ください。

### Windows クライアント

症状	解決方法
Windows クライアントが CN-6000 に接続できない	お使いのコンピュータには DirectX 7.0 以上がインストールされている必要があります。
リモートとローカルのマウスポインタが同期していない	1. Auto Sync 機能(P.37 のビデオアジャストを参照)を使用し、ローカルとリモートのモニタを同期させます。 2. 上記の方法で解決しない場合、Adjust Mouse 機能を使用します。詳細は P.36 をご参照ください。 3. もしこれらの方法で解決できない場合は P.37 の Toggle Mouse Display 機能を使用してください。
リモートモニタでローカルディスプレイの一部分しか表示されない	Keep Screen Size(P.30 を参照)が無効になっているなら、Auto Sync 機能を使って、ローカルとリモートのモニタを同期させることができます。 Keep Screen Size が有効になっているなら、P.30 の設定の項目をご参照ください。
ローカルディスプレイの表示が 90 度回転して表示されている	Keep Screen Size を有効にしてください。P.30 の設定の項目をご参照ください。
Windows クライアントが実行されているとき、Net Meeting が使用できない	Keep Screen Size を有効にしてください。P.30 の設定の項目をご参照ください。

## Sun システム

症状	解決方法
<p>HDB インターフェースでのビデオディスプレイに関する問題 (Sun Blade 1000 サーバ)</p>	<p>VGA 解像度を 1,024 × 768 に設定する必要があります</p> <p>コマンドモードでは:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>OK Mode</b> で以下のコマンドを実行してください setenv output-device screen:r1024x768x60 reset-all</li> </ol> <p><b>XWindow</b> モードでは:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンソールを開いて以下のコマンドを実行してください m64config -res 1024x768x60</li> <li>2. ログアウトします</li> <li>3. ログインします</li> </ol>
<p>13W3 インターフェースでのビデオディスプレイに関する問題 (Sun Ultra サーバ)</p>	<p>VGA 解像度を 1024 × 768 に設定する必要があります</p> <p>コマンドモードでは:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>OK Mode</b> で以下のコマンドを実行してください setenv output-device screen:r1024x768x60 reset-all</li> </ol> <p><b>XWindow</b> モードでは:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンソールを開いて以下のコマンドを実行してください ffbconfig -res 1024x768x60</li> <li>2. ログアウトします</li> <li>3. ログインします</li> </ol>

## Java クライアント

マウス同期の問題に関しては P.32 をご参照ください。接続と操作についての問題は下表をご参照ください。

症状	解決方法
Java クライアントが CN-6000 に接続できない	<ol style="list-style-type: none"><li>1. Java 2 JRE1.4 以上がお使いのコンピュータにインストールされている必要があります。</li><li>2. CN-6000 の IP アドレスを指定する際、ブラウザの URL が正しく入力されているか確認してください。</li><li>3. Java クライアントを一度終了させて、もう一度実行してみてください。</li></ol>
Java クライアントのパフォーマンスが悪い	プログラムを一度終了させて、もう一度実行してみてください。

## ログサーバ

症状	解決方法
ログサーバプログラムが実行できない	<p>ログサーバプログラムはデータベースにアクセスするために Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバを必要としています。</p> <p>このドライバは Windows ME、2000、XP には標準で搭載されていますが、Windows 98 や NT をご使用になっている場合は、Microsoft 社のサイトからダウンロードしてインストールする必要があります。</p> <p><a href="http://www.microsoft.com/data/download.htm">http://www.microsoft.com/data/download.htm</a></p> <p>ダウンロードページで以下のファイルを検索し、入手します。 <b>MDAC 2.7 RTM Refresh (2.70.9001.0)</b></p> <p>このドライバは Windows Office Suite でも使用されているので、Windows Office Suite をインストールしてもログサーバプログラムが実行可能になります。</p>

## 製品保証規定

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品の販売店は、製品および本ドキュメントの使用に関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる表示・保証も行いません。

弊社は製品および付属のソフトウェア・ドキュメントについて、予告なしに改良・改訂を行う権利を有します。詳細については販売店までお問い合わせください。